

ニームオイルでワクモ駆除 鶏糞を徹底除去し 環境の総合対策を図る

今回の農場は、九州北部の小高い山の上に位置している。ふもとには果樹農家や民家があり、以前は臭気クレームを受けたため、飼育環境には注意を払ってきた。高床の開放鶏舎で赤玉鶏のみを飼い、特徴鶏卵を主力に販売してきたが、経営環境の厳しさから、鶏卵品質と産卵成績の改善を一挙に図ろうと考えた。

ニームオイルの散布と集卵ベルトの切り替えを実施

夏の飼育環境の改善をポイントに、まず取り組んだのはワクモ対策である。汚卵を増やし、成績にも影響するワクモ退治の大役を担ったのはニームオイル。天然植物成分で、殺虫ではなく忌避作用を中心にし、ワクモの耐性が出ていくことに注目した。

また、ワクモが集卵ベルトの裏に隠れないように、集卵ベルトをネット状のものに変更。同時にベルトの汚れが卵につきにくい効果も狙っている。

ニームオイルの散布は夏を控えた6月末に行われた。最初は4日に1回、300倍の高濃度で3回散布した。その後、500倍での散布を10日おきに3回繰り返し返したところ、最初の3回でワクモは激減し、最後の散布後にはワクモの姿が見えなくなった。ここまでで10万円強の費用である。あとはときどき1000倍の濃度で散布を続ける。さびなどの

弊害もなく、外部導入のヒナにも念のため散布した。ニームオイルは種類によって匂いや乳化のしやすさに差があるので、いろいろ試すとよい。

鶏糞の徹底除去で臭気・ハエ対策に効果

次に取り組んだのは除糞である。調べたところ、下段ケージの成績があまりよくなかった。これはワクモだけでなく積みあがった鶏糞から上がる臭気の影響もあると考え、関係者の全面的な協力の下、徹底的に除去した。飼育環境は大幅に改善され、臭気やハエの対策に大きな効果が出た。夏場はウジが鶏糞を液状化してしまうので、その前に処理する体制をつくることは鶏糞処理の面でも重要である。

格外率が1%低減し
産卵率は2%改善

以上の総合的な環境対策を通じて、格外率は約1%低減され、吸血やアンモニアによるストレスの軽減により、産卵率は約2%改善された。夏場を控えた時期にこの成績の底上げは非常にありがたく、よく産みよく食べることで体力をつけた鶏が、九州の暑い夏を気丈夫に乗り切ってくれたことはいままでもない。

この養鶏場は、今もさまざまな試行錯誤を続けながら経営を続けている。地域住民や鶏たちとのかわりの中で、飼育環境を整えることが一番の基本であると考えて、少しでもよい卵をつくり、よい価値を提供することをめざしている。

*裏表紙に用語解説

ワクモ対策



改善前の様子。布製のケージの集卵ベルト



ネット状の集卵ベルトに切り替えた



散布実施後、ワクモの姿がまったく見えなくなった(写真右も)



鶏糞の除去



山積みだった鶏糞も一斉に除去



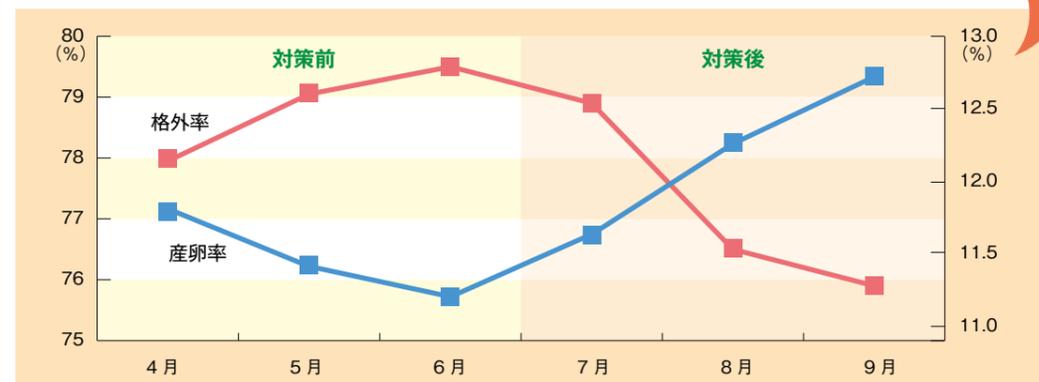
Point!

夏場はウジが鶏糞を液状化してしまうので、その前に処理する体制をつくることは鶏糞処理の面でも重要である

Point!

6月末から7月末にかけて、ニームオイルを散布。その結果、格外率が下がり、産卵率が上昇した

図1：農場の生産成績比較(平成21年4～9月)



DATA 事業規模
所在地：九州地方
飼養頭数：10万羽